

令和元年度
自己評価 報告書

評価期間 自:平成31年4月 1日
至:令和 2年3月31日

令和2年 6月16日

専門学校 日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要Ver 4.0』に準拠し実施した。

自己評価委員会

委員長	野口 朝夫 (校長)
委員	鈴木 真紀夫 (主任)
委員	上原 則博 (主任)
委員	池谷 光江 (主任)

事務局	長坂 大輔 (事務局長)
	銭谷 裕子 (教務課長)
	富田 隆徳 (総務課)

目次

1. 学校の教育目標	P3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 ...	P3
3. 点検項目の評価結果	P3～8
(1)教育理念	P3
(2)学校運営	P4
(3)教育活動	P4・5
(4)教育成果	P5
(5)学生支援	P5・6
(6)施設整備	P6
(7)学生募集	P6・7
(8)財務	P7
(9)法令順守	P7・8
(10)社会貢献	P8
(11)国際交流	P7
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P9
(1)教育目標	P9
(2)財務評価	P9
(3)一般的評価	P9

1. 学校の教育目的

専門学校日本デザイナー学院は、高度に進歩する産業社会において生活と文化に携わる有能なクリエイターを養成することを目的とし、その職能上必要とされる技能を履修させ教養を積み、同時に人間形成に努め、社会人としての自覚と責任をもつ人材の育成を使命とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 社会貢献の意識を高め、コミュニケーション能力を養うことを目的とした学生活動に対する支援を行う。
- 2) クリエイティブ業界と学生のニーズを反映し、バランスのとれたカリキュラム編成を行う。

3. 自己点検・評価項目の結果

(1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	④	3	2	1
1-2)	学校の特色は示されているか	④	3	2	1
1-3)	学校の将来構想は示されているか	4	③	2	1
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	4	③	2	1
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

超実践教育という本校の教育理念に基づきながらも、変化し続ける業界のニーズに合わせてより実践に即したカリキュラムを構築することが課題である。

②今後の改善方策

業界動向や社会情勢等の情報収集を絶えず行い、最新の情報に基づいた検討結果を踏まえながら、教育理念を指針とした授業運営を行っていく。

③特記事項

学院の教育目的、使命、教育目標は、入学時と進級時のガイダンス等で学生や保護者に周知している。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
2-1)	運営方針は定められているか	4	③	2	1
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
2-3)	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	4	③	2	1
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
2-5)	意思決定システムは確立されているか	4	③	2	1
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

学校運営について、意思決定のプロセスをはじめ必要な情報の周知がまだ不十分な箇所が存在する。

②今後の改善方策

講師会及び職員総会等の機会を通じて、より一層丁寧に学校運営に関する情報を提供するよう心掛ける。

③特記事項

特記事項なし

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
3-1)	教育理念等に沿った教育課程も編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	4	③	2	1
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	④	3	2	1
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	4	③	2	1
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
3-9)	授業評価は実施されているか	④	3	2	1
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	4	③	2	1
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4	③	2	1
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

本校の特色でもある職業に特化した専門的な技術教育と、広く社会で必要とされる社会人としての基本的素養を身に付ける教育とを両立させること。

②今後の改善方策

専門性の高い職能教育だけでなく、コミュニケーション能力の習得等を目的としたより実践的な科目を設定する。

③特記事項

卒業年度生を対象に、就職対策授業を週1回実施している。

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4	③	2	1
4-2)	資格取得を向上させるための施策は図られているか	4	③	2	1
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	4	③	2	1
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
4-5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①課題

個別対応が必要な学生の増加が続いており、学生生活をサポートする学校スタッフの負担が増加している。

②今後の改善方策

スタッフ間での学生情報の共有をすすめ、担当者を複数配置。個別面談におけるスタッフの負担を軽減。卒業生との関係を永続的に形成するために、校友会との連携を積極的に行っていく。

③特記事項

企業説明会や会社見学会等のイベントを実施している。

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	4	③	2	1
5-2)	学生相談などの支援体制はどうか	4	③	2	1
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	4	③	2	1
5-4)	学生の健康管理はどうか	4	③	2	1
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
5-6)	学生寮等の支援体制は整備されているか	4	③	2	1
5-7)	保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

①課題

[社会情勢をはじめとした学生を取り巻く環境の変化に対応した支援体制の構築。]

②今後の改善方策

[保護者との情報共有を定期的に行うなど連携を強化することで、柔軟な学生サポートを行うことができる体制を構築していく。]

③特記事項

[1:出席や成績等、学生生活の状況を保護者に定期的に報告している。
2:カルテを作成することで、講師、職員間で事例の共有をしている。
3:高等学校部活動支援の実施等を行っている。]

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	④	3	2	1
6-2)	学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
6-3)	防災体制は整っているか	4	③	2	1

①課題

[新たに導入した施設や設備のより有効な活用方法を随時模索していく。]

②今後の改善方策

[改築した施設や設備に関する最新の情報を常に共有するための体制を整備する。]

③特記事項

[4, 5, 6, 7, 9階の各教室の改築が終了。]

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
7-1)	学生募集活動は適正か	④	3	2	1
7-2)	学生募集に教育成果は反映されているか	④	3	2	1
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4	③	2	1
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

〔 自校HPやSNSでの教育成果のアピールを充実させながら、入学希望者と教育内容のマッチングを適正に行う。新型コロナウイルスの影響により大きく変化する募集活動への対応を進める。 〕

②今後の改善方策

〔 社会情勢に合わせた募集活動を臨機応変に行うことが可能な体制を築いていく。 〕

③特記事項

〔 1:対象分野を総合的に幅広く学びながら、業界のニーズに対応できる3年制学科の初年度が開始。
2:働きながらイラストを学ぶというニーズに応えるため、夜間部にイラストレーション科を新設予定。 〕

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
8-1)	中長期的に財務基盤はどうか	4	③	2	1
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4	③	2	1
8-3)	会計監査は適正に行われているか	④	3	2	1
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

①課題

〔 適正に行われていると判断している。 〕

②今後の改善方策

〔 現状どおり継続していく。 〕

③特記事項

〔 特記事項なし 〕

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	③	2	1
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4	③	2	1
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4	③	2	1

①課題

[適正に行われていると判断している。]

②今後の改善方策

[現状どおり継続していく。]

③特記事項

[1:法令順守について講師会、職員総会で周知徹底を図っている。
2:自己評価、学校評価をホームページで公表している。]

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4	③	2	1
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	4	③	2	1
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

[ボランティア活動の支援。]

②今後の改善方策

[クリエイティブな視点でのボランティア活動において、サポートできる機会を増やす。]

③特記事項

[今年度も東日本大震災復興支援のボランティア活動、病院でのアート活動、地方公共団体のPR活動等を行っている。]

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	③	2	1
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

8

①課題

- [1: 新型コロナウイルスの影響を受けている留学生への対応。
2: 日本で就業可能なレベルの日本語能力の育成。]

②今後の改善方策

- [1: オンラインシステムを活用し授業を提供しながらも、入国へ向けたサポートも引き続き行う。
2: ビジネス日本語習得に関する科目を設定。]

③特記事項

- [マレーシアに設置予定の姉妹校を基軸として、本校の国際化を促進させていきたい。]

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

教育評価は概ね適切という判断であるが、いくつかの点において課題や改善の余地がある。超実践教育という教育理念に関しては概ね実現されてきたが、今後については、社会情勢が大きく変化している現在の状況を踏まえた対応が必須である。

学生対応については、個別相談の更なる充実、保護者や卒業生との連携など、これまで以上に改善できる部分がある。留学生については、ビジネス日本語の授業等を設定し授業内容の把握や就業支援につなげることが期待されると共に、来日に向けた支援も可能な範囲で実施する必要があると考える。

(2) 財務評価

令和元年度の入学者数は前年度よりも増加した。適正な予算・収支計画に基づき、安定的な学校運営が行われていると判断している。

(3) 一般的評価

専門学校日本デザイナー学院は、クリエイティブ教育の専門学校として創立56年目を迎え、創立以来多くの卒業生達をグラフィック・マンガ・イラストなどの産業界と生活文化に携わる有能なクリエイターとして輩出している。

社会人としての自覚と責任を持たせる指導を行いながら、クリエイティブ業界のニーズに対応するために毎年カリキュラムの改良にも努めている。

今年度もJR渋谷駅、麒麟ビバレッジ等の企業や、長野県小諸市や三重県伊賀市等の地方自治体と協力した産学協同、被災地に対する復興支援活動、病院での作品展示等のボランティア活動等の実践教育は高く評価されている。